

岩波ホール発

白石加代子

KAYOKO SHIRAIISHI

百物語  
シリーズ

HYAKU  
MONOGATARI  
SERIES

# 第三十二夜

第九十九話ファイナル公演

構成・演出 鴨下信一  
出演 白石加代子

第九十八話 三島由紀夫「橋づくし」

第九十九話 泉鏡花「天守物語」

最終公演は「百物語」の総集編です。

(鴨下信一)

2014 9.14日 18:00 開演

15月 15:00 開演

※開場は開演の30分前

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール  
TOYOHASHI ARTS THEATRE MAIN HALL

チケット発売日 (10:00より受付)

会員先行:7/5(土)

[プラットフォーム・豊橋文化振興財団維持会員]

一般発売:7/12(土)

お問合せ

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地

TEL:0532-39-8810 <http://toyohashi-at.jp>

いいこと？ さつきも言ったけど、もう一度言うわよ。  
家を出てから、七つの橋を渡りきるまで、絶対に口をきいちゃだめよ。  
願ひ事がだめになつてしまふんだから。

## 第九十八話

### 三島由紀夫 「橋づくし」

陰曆八月十五日(旧暦)の夜、新橋の料亭・米井の娘、満佐子は、芸妓の小弓、かな子と一緒に願掛けに出かける。満佐子の願ひは「俳優の R と一緒にいたい」、かな子は「好い旦那が欲しい」、四十二歳の芸妓の小弓は「お金が欲しい」のである。

三人の願ひは簡明で、正直に顔に出ている、実に人間らしい願ひだから、月下の道を歩く三人を見れば、月はいやでもそれを見抜いて、叶えてやろうという気になるにちがいない。

三人と、満佐子の家の新米女中のみながお供に加わる。

願掛けのルールは、①七つの橋を渡るときに同じ道を二度通ってはいけない ②今夜の願ひ事はお互いに言ってはならない ③一度知り合いから話しかけられたら願ひはすでに破られている ④橋を渡る前と渡ったあと、それぞれ四回お祈りをするのである。

願掛けの結果は、四人のうちみなという女中だけがルール通りに七つの橋を渡りきる。このみなの願ひ事だけ他の三人にも、ましてや読者にも伝えられることはありません。

三島由紀夫の「橋づくし」は、築地界隈を舞台に、陰曆八月十五日の満月の夜に七つの橋を渡って願掛けをする女たちの悲喜こもこもを巧妙に描いた作品。優れた技巧と構成で、多くの文芸評論家や作家から、短編の傑作として高い評価を受けています。

美しい日本語の旋律で紡ぎだされる三島由紀夫の独特の世界。

「百物語」には満を持しての初登場となります。花柳界の三人の女とみなという普通の女という対照的な女性達を白石はどう演じ分けるか、興味は募ります。

## 岩波ホール発

### 白石加代子「百物語」シリーズ 第三十二夜 第九十九話 ファイナル公演

## 第九十九話

### 泉鏡花 「天守物語」

「言葉の中にこそ、至純の心があり、至純の愛がある」、それこそが演劇ではないだろうか。そういう意味ではこの「天守物語」は演劇の中の演劇である。

時、不詳。ただし封建時代——晩秋。日没より深更にいたる。

所、播州姫路。白鷺城の天守、第五重。

登場人物、天守夫人、富姫、……侍女五人。桔梗、女郎花、萩、葛、撫子。各々名にそぐへる姿、鼓の緒の欄干に、あるいは立ち、あるいは坐て、手に手に五色の絹糸を巻きたる糸棒に、金色銀色の細き棒を通し、糸を松杉の高き梢を漕がして、釣の姿す。

このように第九十九話目は、優雅にゆるやかに幕を開け、逃げた鷹を追い求めて、天守にやってきた圖書之助と名乗る若き武者の登場と共に急展開を始めます。禁断の場所に踏み込んだ若者の命をとるべき姫が、その若者に恋をした。禁断の愛は、命をかけた至純の恋へと昇華していく。

「百物語」の演出家鴨下信一は、九十話を終わるころから、最後の話を何にするか考え始めたとき、次第にこの「天守物語」に焦点を定めはじめました。

「見えるものを取り除いたとき、それまで見えなかったものが見えてくる。心の目で見る世界にこそ、真実がある」とシェイクスピアはハムレットに語らせています。「百物語」はまさに、心の世界で繰り広げられるスペクタクルです。

白石加代子によって語られる言葉と共に、物語の現場へと観客は連れ去られる。それは心の風景の現場です。その心の風景の中では、さまざまな不思議で怪奇な出来事が繰り広げられているのです。

そして今回の「天守物語」は、物語の風格、深さ、美しさ、激しさ、すべての面において、「百物語」の最後を飾るにふさわしい作品といえるでしょう。

### 「百物語」について

白石加代子「百物語」シリーズは、明治から現代の日本の作家の小説を中心に、「恐怖」というキーワードで選び、それを白石加代子が朗読するという形で出発した。

上田秋成「雨月物語」、泉鏡花「高野聖」、坂口安吾「桜の森の満開の下」、江戸川乱歩「押絵と旅する男」、という幻想文学の傑作作品から、半村良「筆筒」、筒井康隆「五郎八航空」、阿刀田高「干魚と漏電」、高橋克彦「遠い記憶」、宮部みゆき「小袖の手」、小池麻理子「ミミ」といった現代作家の人気作品までの幅広いレパートリーと白石加代子の朗読という枠を越えた立体的な語りと動きのある上演で人気を博している。

構成・演出：鴨下信一 出演：白石加代子

照明：山口暁 音響：清水麻理子 衣装：江幡洋子／池田洋子 結髪：笹部純

演出助手：平井由紀 舞台監督：伊藤 満／太刀岡正 写真：田中亜紀

宣伝美術：いちのへ宏彰 協力：京屋かつら 広報：高仲典子 制作：高比良理恵

企画：笹部博司 製作：メジャーリーグ 後援：岩波ホール

枚数  
限定

12月7日(月) PLAT主ホール

「国本武春の大忠臣蔵」との2公演セット券発売決定！

セット券(「百物語」+「国本武春の大忠臣蔵」)6,000円

※「大忠臣蔵」のみの一般料金：3,000円

2014 9.14(日) 18:00 開演 9.15(月) 15:00 開演 ※開場は開演の30分前

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール  
TOYOHASHI ARTS THEATRE MAIN HALL

### チケット発売日(セット券とも)

会員先行：7月 5日(土) 10:00

[プラットフォーム・豊橋文化振興財団維持会員]

一般発売：7月12日(土) 10:00

※各発売初日はお一人様一申込みにつき一公演4枚(セット券は4組)まで。

### 料金(全席指定・税込)

一般 ..... 4,000円  
U24(24歳以下対象) ..... 2,000円  
高校生以下 ..... 1,000円  
セット券(「百物語」+「大忠臣蔵」) ..... 6,000円

※U24、高校生以下は一般発売日からプラットフォームにて取扱い。

一人1枚・枚数限定・座席指定不可・入場時身分証明書提示。

※セット券はプラットフォームのみ取扱い。

※未就学児童の入場はご遠慮いただきます。

※開演後は、指定の座席にご案内できない場合がございます。

### チケット取扱い

●プラットフォームセンター  
窓口・TEL 0532-39-3090(休館日を除く10:00~19:00)  
オンライン <http://toyohashi-at.jp>(24時間受付・事前登録)

●チケットぴあ  
0570-02-9999 (Pコード: 437-802)  
<http://pia.jp/> [PC・携帯]

●豊橋ステーションビルカルミア2Fサービスセンター

●ほの国百貨店6Fプレイガイド

○託児サービス(定員あり・要予約)  
生後6ヶ月以上対象/お子様一人につき500円  
9月6日(土) までに問合せ先へ

○車椅子スペース(定員あり・要予約)  
プラットフォームセンター(窓口)にて前売開始日  
(会員・一般)より取り扱います。  
また、本席チケットをお持ちの車椅子利用のお客様は、  
スムーズにご案内のために事前にプラットフォームセンター  
までご連絡ください。



お問合せ：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地

TEL:0532-39-8810 <http://toyohashi-at.jp>

毎月第3月曜日休館(祝日の場合は翌日)

主催：公益財団法人豊橋文化振興財団/

共催：豊橋市/後援：豊橋市教育委員会

平成26年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

